

今年も東日本大震災を忘れず、亡くなった方々のご供養に『復興のひまわり』の種を蒔きました



おひまり

No.306
平成 30 年 7 月 10 日発行
社会福祉法人円福会
円福寺愛育園
園長 青谷幸治

新任職員講話

理事長 藤本光世

園長の依頼により、7名の新任職員にお話しする機会を得ました。とても忙しい日で、時間が約1時間と限られていましたので、たくさんは話せなかったのですが、みんなよく聞いてくれて、気持ちよく話すことができました。私は施設長会議や研修などで、児童福祉について、あるいは児童福祉施設の経営について講演を聴く機会は何度もありましたが、残念なことに参考になるお話は一度もありませんでした。何故でしょうか。それは、当園の養育の目的と、国あるいは他施設の養育の目的が乖離しているからでしょうか。当園の養育はそれほど間違っているのでしょうか。でも、愛育園の子どもたちは全員が愛育園の生活を喜び、楽しみ、学校は皆勤で、それぞれが目的に向かって毎日を全力で過ごしています。暴力はもちろん、反社会的行動はありません。このような事実があるのに、その事実を更に発展させるような、参考になる講演に遭遇することが無かったのは、悲しいことでもありました。同じ方向で努力している施設や施設長に巡り合わなかったことも悲しいことでした。そして、良い養育の実践の事実をたくさん積み上げたとしても、当園を取り巻く環境の厳しさを思い知りました。国や児童福祉の専門家に分かっていたいただくには長い時間がかかります。いや、社会に分かっていただくことが国や児童福祉の専門家を動かす力になるかもしれません。

新任職員には主に二つのことをお話しました。

1. 子どもの心の奥深いところにあるものを理解し配慮すること。

表面に出る子どもの行動と、その背後にある心の関係についてはユングのコンプレックスの概念を使いました。学生の頃か、教員になったころか、岩波新書で河合隼雄著の「コンプレックス」を読みました。コンプレックスとは心的複合体で、日常使われる「劣等感」の意味ではありません。新書には、確か次の図がありました。

左図より、自我はもっと小さく描かれていました。もっとずっと小さい。その小さな自我に心の深いにある大きなコンプレックスが関わって、様々な行動が表れる。児童養護施設の子どものは、生育の過程でコンプレックスに悪い影響を及ぼす様々な影響を被りがちです。いや、被って入所して来ます。このことを理解して、子どもに対応しないと、子どもを叱ってばかりいる職員になってしまう。

子どもは叱られても理解できないのです。

それは、聞き手が受け止める印象操作の割合を表したメラビアンの法則に良く現れています。つまり、聞き手は目からの情報(視覚情報)が 55%、耳からの情報(聴覚情報)が 35%…聴覚情報とは言葉の意味ではなくて、音声から感じる事…例えば怒っているか優しいかなど…で、言葉の意味の理解は 10%以下なのです。だから、先生は授業で重要なポイントを、言葉を変え品を変え、繰り返し繰り返し話すのです。

小さな子どもは言葉の意味を理解できる割合はもっと低いでしょう。昔、職員が幼児さんを坐らせて 3 時間もお説教したことがあり、私はその保育士を強く叱りました。無意味です。それは虐待以外の何ものでもありません。だから、職員は子どもの行動の奥の深いところにある心を理解して、丁寧に対応しなければならないのです。

2. 自分を調節して長く務めてほしいこと。

大学のころ教育心理学でピアジェを学びました。ピアジェには成長とともに変化する「保存」の概念の研究があります。人は「保存」を使って自然現象の理解を深めるのです。このことと共に、私は「適応とは同化と調節の間の均衡」と読んだことが強い印象として残りました。同化とは個体あるいは生物の集団が環境を変えること。調節とは生きていくために自分を変えること。適応とは環境を変えることと自分を変えることのバランスの中にある。このことは腑に落ちました。だから今でも忘れない金言です。

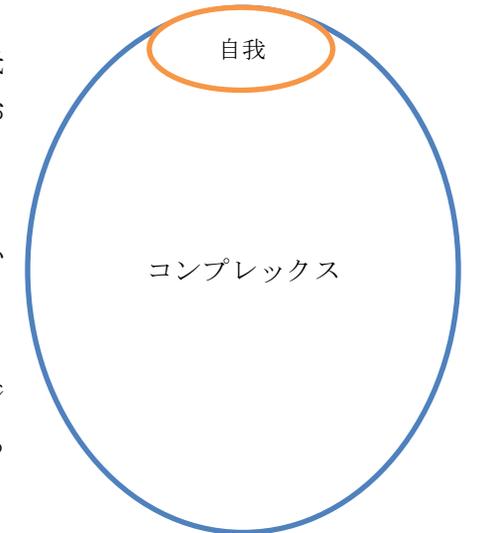
職員は、愛育園の環境の中で、自分を変えて(調節して)ほしい。近年の長い時間をかけて愛育園を良くしてきた実践に学び、自分を変えてほしい。そして、その上で愛育園を進化させてほしいという願いを込めました。一生懸命仕事に挑戦することにより、自分が変わり、愛育園の職員として相応しい仕事ができるようになるでしょう。まさに適応です。

新任職員が自己を調節して、愛育園の養育に溶け込み、人間としてのレベルを上げることを願っています。

先月号の内容に誤りがありましたのでお詫びかたがた訂正いたします。私の友人が指摘してくれました。(他にも指摘して下さった方がいました。)

『さて、堤防決壊を止めた少年の話に誤りがある。』

- ① デンマークではなく**オランダ**
- ② この少年は**凍死**したのであるが
- ③ 実話ではなく、メアリ・メープス・ドッジ成る作家の**フィクション**



④ よくある、日本人に受けて、
本国では知られていないフランダースの犬的な話らしい』

陸地が海面下にある国はオランダでした。父が貧しい国土から復興したデンマークの話(デンマーク国の話…内村鑑三著)が好きだったので、間違えてしまいました。ヒマワリが咲き「孫が帰って来てくれた」という記事を震災の翌年に知り、私自身すぐにヒマワリの種を取り寄せ、園の子どもたちと種を植え、ヒマワリをたくさん咲かせ続けてから 6 年になります。



東日本大震災の日、私は自宅で過ごしていました。地震発生後、TVに釘付けになっていました。悲惨な光景をただただ見ているだけで、何もできない自分の小ささと情けなさを感じました。しかし自分にも何かできないか？園の子どもたちと何かできるのではないか？そう思い続け、たどり着いたのが「長野の地で復興のヒマワリを咲かす」ことでした。愛育園から復興のヒマワリを咲かせ、その種を全国の皆さんに広げ、ささやかではありますが震災を忘れない、そして亡くなった方々のご供養になればと始めました。愛育園では毎年、子どもたちとたくさんのヒマワリを咲かすことができていましたが、その種をたくさんの方々に届けることができませんでした。しかし、昨年愛育園の協力者でもある牛山さんの紹介もあり、福島県でヒマワリ里親プロジェクトの存在を知りました。まさに私が思い描いていたヒマワリを咲かせ、その種を全国の皆様に届け、全国各地でヒマワリを咲かせる。そして、その種を福島に返すというプロジェクトでした。先日もヒマワリ講演会に子どもたちと参加してきました。ヒマワリを通じたご縁をいただき、また今年もヒマワリの種を蒔きます。石巻のヒマワリと福島のヒマワリ。子どもたちと太陽に伸びるように大きく育て、復興のシンボルにしていきたいと思えます。そして、子どもたちの情操教育の一環になればと思えます。秋には種を取ります。福島の種は、福島に里帰りしますが、石巻の種はぜひ多くの方々の手に渡り、また来年一緒にヒマワリを咲かせてもらえることを願っています。

少年野球

園長 青谷幸治

6 月下旬の休日の暑い中、少年野球の練習試合に同行しました。久しぶりの観戦であり楽しみにしていた。しかし、最近の小学生の練習の様子を聞くと集中力がない、すぐに気持ちが切れてしまう、

最後にはふて腐れて逆ギレしてしまう。そんな報告を多く耳にしてきました。そんな状況で暑い中どんな戦いができるのか？本気になって力を出し切れるのか？一抹の不安はあった。特に 5 年生の R 君には期待もあり、逆に試合を壊すこともあり心配でした。そして試合前にオーダーを決めるとき、R 君を呼んで声をかけた。「どうする。キャッチャーやってみるか？」「うん」。やりたい気持ちもあるが、ちょっと不安な様子でうなづく。

「暑いけど、1 時間やり切ろう」「R と Y の 5 年生でチームを引っ張れ」そんな声をかけて、試合がスタートしました。ピッチャーは Y 君。投げる球は速い。そんなボールでも R 君は必死に取った。ショートバウンドも取った。どれだけ打たれても、どれだけエラーしても R 君は、あきらめず最後まで取り組みました。結果は 2 5 - 0 惨敗。5 年生 2 人で引っ張ったチームも 6 年生のチームに敵いませんでした。

でも収穫がありました。R 君の成長です。最後まで気持ちを切らさず 1 時間取り組めたことを褒めてあげました。R 君の終わったあとの安堵感とやり切った達成感が伝わってきました。野球も上手くなり今後の取り組みに期待したいと思いました。

愛育園で大事にしていること。野球が上手ければいい、野球だけやればいいのではなく、野球で頑張れる力を園での生活や学校生活や勉強、習い事など何でも一生懸命取り組める力をつけてほしい。経験が全て生活のハリにつながり、目標を持って気持ちが揺れず生活を送れる人になってほしい。

そして R 君も、もっと自分に自信をもって「僕もできる！」って思って生活してほしい。数日後の練習で、気持ちが切れてしまった R 君の報告を聞いて残念だったが、何度も経験を積みながら、自信をつけ何でも積極的に取り組める。そんな人になれることを期待し、先生方に託します。

頑張れ少年野球！！



父の日の会

あおぞら 保育士 佐々木 弘観

6 月中旬に、父の日の会を開いていただきました。男性職員全員、お花やメッセージが入った手作りの小物をいただきました。有り難い事に毎年心のこもった物をいただいております。私は今年で 4 回目になります。

私は中途採用で愛育園に来させていただきました。6月途中からの勤務でしたので、1回目の父の日の会は、仕事を始めて2週間も経たない頃でした。いきなりの事でビックリしたのと同時に非常に心が温かくなり、子ども達からのメッセージに感動しました。まだまだ分からない事だらけ、話した事も数える程しかなかった子からも、もっと遊ぼう！お話ししよう！と沢山のメッセージを頂きました。

あれから3年が経ち、色んな事がありました。沢山の行事を子ども達と一緒に経験し、全力で遊んで、全力で喜んで、時には本気で怒る事もありました。本当に色々な経験をさせて頂きました。子ども達からプレゼントでいただいたメッセージにも変化があり、毎年とても楽しみにしています。面と向かって中々言えない事もメッセージだったら伝えやすいのか、普段思っている事、本当はこうしたい！という想いが書いてあったりします。

毎年この時期に元気を貰っています。暑い日が続きますが、これからも遊ぶ時は全力で遊んで、話す時は本気で関わっていきたいと思います。

父の日の会

6月17日、子ども達に『父の日の会』としてお祝いしていただきました。今年で愛育園での勤務が2年目となり、父の日を祝っていただくのも2回目となりました。昨年も心のこもったプレゼントを頂きましたが、今年もプレゼントとしてメッセージボードとメモスタンドを頂きました。メモスタンドは手のかかったらうなと言う出来栄で、メッセージボードのメッセージも一人一人心のこもった言葉が書かれていました。母の日の会のプレゼントと一緒に作ったときも感じましたが、子ども達は人のために動くことができる心がある、と思います。人のために何かしたい、そう感じる事ができるのは素晴らしいことだと感じますし、これからもその気持ちを忘れずに成長して行って欲しいと思います。私自身も素敵なプレゼントをもらった分、一生懸命子ども達のためにできることをしていこうと改めて感じました。また一年後の『父の日』を子ども達と一緒に笑顔で迎える事が出来るよう勤務に励みたいと思います。



あおぞら 近藤誠志郎

「父の日」

倉島 誠

6月17日「父の日」でした。子ども達から花とメモスタンドとコルクボードに写真と寄せ書きが施されたとても豪華なものを頂きました。寄せ書きの中には、女の子達からは「まだあまり話したことはないけど」や「話す機会は少ないけど、これからもよろしくお願いします」といった内容が多かったです。男の子達からは「キャッチボールをしてくれてありがとう」や普段、照れて面と向かって言えないことを書いている子がいて、とても嬉しく思い、これからも頑張ろうと思えました。父の日ということで、社会人一年目、仕事の厳しさを思う度に、父の偉大さを身に染みて感じます。これからもどちらが子どもか分からないですし、他の職員の皆さんに助けをいただければいいのですが、子ども達にとって頼りになる存在、こんな大人になりたいなと思ってもらえるような目標となる人間になる為に、日々、全力で自分自身と、また、子ども達と向き合っていきたいなと思います。今回、父の日を催していただいた女性職員の皆様、本当にありがとうございました。子ども達にもありがとうの気持ちでいっぱいです。これからもよろしくお願いします。

通明小学校との懇談会

まごころホーム 保育士 加藤ゆかり

6月20日に、毎年行っている通明小学校との懇談会がありました。全体懇談会では、学校や愛育園の概要説明をし、ホーム会議では、1人1人の子ども達の園での様子、学校での様子を細かく伝え合いました。担任の先生からのお話を聞くと、こちらが思っている以上に子ども達が毎日頑張っていることが分かりました。また、それぞれ課題ももちろんありますが、それは甘えたいというサインなのか、と小学校の先生からのお話もあり、勉強になりました。ただ目の前の悪かったことを叱るのではなく、どうしてそのような言動を取るのか、子ども達の気持ちを汲み取り、サインをしっかりキャッチしていきたいな、と思いました。

お参りの様子を見てくださる先生もいらっしゃり、子ども達はいつも以上に大きな声で、張り切って、お参りに参加していました。また、夕食を食べて行かれる先生もいらっしゃり、子ども達は、担任の先生と愛育園でご飯を食べるのが新鮮でもあり、とても嬉しそうでもありました。とてもにぎやかな夕食会となりました。

今後も、小学校と愛育園で密に連携していけたらいいなと思います。ありがとうございました。



『わいわいカルビご招待』

まごころ保育士 竹内早季

先日、わいわいカルビさんから夕食のご招待があり、パルセイロのスタッフの方も来ていただき、みんなで食事会を行いました。毎年子ども達もこの日を楽しみにしています。お店につくと、みんな自分から「こんにちは。」「ありがとうございます。」と挨拶ができており、いい雰囲気の中始めることができました。各テーブルにパルセイロの方が座り、子ども達も最近試合を観に行っていたこともあり、サッカーのことや試合のことについて興味津々で話をしていました。楽しくお話ししながら、おいしいお肉をたくさん食べられて大満足だったと思います。最後に恒例のパルセイロの方とのじゃんけん大会があり、勝った子ども達がタオルなどグッズを頂いており、ニコニコと嬉しそうでした。今回、わいわいカルビさんとパルセイロさんへそれぞれお礼のメッセージボードを作成して、プレゼントしました。子ども達も何人か快く手伝ってくれて、良いプレゼントになったかと思えます。招待していただいたことを当たり前思わず、感謝の気持ちを忘れずにしていってほしいです。



『わいわいカルビさん』

児童感想 Mさん



とても嬉しかったです。私はタオルをもらいました。楽しかったので、楽しかった分またがんばりたいと思いました。

今回もわいわいカルビさんのご招待で、焼肉を食べました。パルセイロの方々も来てくださって、楽しい食事会になったと思えました。わいわいカルビさんとも、パルセイロの方々とも久々に会ったので、少し緊張していました。焼肉もすごくおいしかったです。そして、パルセイロの方とも話せて、楽しかったです。今回も毎年恒例のじゃんけん大会もありました。7人が景品をもらえるのですが、私は1番にも

あおぞらホーム日より

あおぞらホーム保育士 山田忍

梅雨も明け、いよいよ夏本番の季節がやって来ました。円福寺愛育園では管理棟の改修工事に続き、児童棟の改修工事も始まろうとしています、近隣の皆様にはご迷惑おかけしているかと思いますが、今まで同様温かく見守って頂けたらとてもありがたいです。

さて、園での子ども達の様子はというと、もうすぐ夏休みという事もあり楽しそうな笑顔であふれています、私達職員も「夏休みの宿題は大丈夫かな?」「自由研究は何をやるのかな?」「受験生達は頑張れるかな?」と気になっております。

本格的に部活が始まっている中学生も多く、高校生も目指す進路に向けての課題に取り組んでおります、特に受験を控えている中学生、高校生は暑い中でも気を抜かずに「この夏を乗り切れた」という自信を持ってもらえたらいいなと思えます。

また、毎年恒例のキャンプやハイキング等、園の予定する行事もあり、子ども達みんなが充実した夏になるように職員一丸となって継続した支援をしていきたいと思っております。



あおぞら児童 感想

6月10日に、パルセイロの応援に行きました。最近パルセイロは勝てなくて、負けてしまっていたので、たくさん応援しました。

たくさんいいシュートを打っていたけど、後半、押され気味になってしまい、0-1で負けてしまいました。次は勝ってほしいです。早くJ2に行って松本山雅と戦って欲しいです。

(小5 Y. Y)

パルセイロの応援に行きました。負けてしまったけど、最後のシュートがネットに当たり、惜しかったです。みんな一所懸命でかっこ良かったです。応援しているので頑張ってください。

(小1 N. S)



まごころホームだより



まごころホーム保育士 有賀 真知

1学期も残すところ1ヶ月となりました。梅雨の時期に入りましたが雨の日も少なく、暑い日が続く今日この頃、まごころホームの子ども達は毎日元気に登校しています。

6月3日には小学校の運動会がありました。運動会までの期間は、毎日学校で何時間も練習をしたようです。また、園でもダンスを披露してくれたり、騎馬戦の帽子を取る練習をしたりと、一生懸命取り

組んでいました。運動会当日は職員だけではなく中高生も応援に駆けつけ、頑張っている小学生を大声で応援しました。短距離走やダンス、リレーや騎馬戦、そして6年生の集大成である組体操など、子ども達が一杯取り組んでいる姿がとても素敵でした。

中高生は期末テストに向けて、放課後や休日の多くの時間学習に取り組んでいました。一人ひとりテストまでの学習計画をたて、毎日決めた範囲を一生懸命こなしていました。中には今回のテストで、テスト前に慌てて復習をするのではなく日々の学習から予習、復習をしっかりと取り組むべきだったと話す子もいました。点数の良し悪しだけではなく、そのような振り返りが出来ることが大切だと思うので、今後も日々の学習に力を入れて頑張してほしいと思います。

また、父の日に向けて高校生のSさんを中心に、プレゼント作りをしました。まごころホームでは、中高生がコルクボードにビーズや貝殻で飾り付けをし、小学生が写真やメッセージカードをバランスよく貼り付けました。みんなで協力して、日頃の感謝の気持ちがこもった素敵なプレゼントを作ることができました。

これから夏に向けてどんどん暑くなりますが、体調管理をしっかり行い、勉強や部活、習い事など一生懸命取り組んで欲しいです。

調理室だより

調理員 大下はる江

調理室の窓から見える紫陽花が今年も可愛い花を咲かせています。一雨ごとに色を増してきれい

です。

今月も調理では、虫歯予防特別メニュー、月遅れ節句メニュー、父の日特別メニュー、小学校の先生方との交流食事会と楽しく過ごしましたが、今は長年大切に用いていた食堂を大改装するにあたり全てのものを運び出して仮設の食堂に移りました。何もなくなった食堂はこんなに広がったのかなと思われ少し寂しく感じられます。けれども7月中旬には、クロス、床を張替え空調設備の整った立派な食堂になります。工事が進んでいく様子を見ながらその日が来るのを楽しみに待っています。新しい食堂でも子ども達の楽しい思い出に残る食事作りに頑張ります。

愛育園の職員になって

3月末の研修から勤務が始まり、早3ヶ月が経ちました。日々の業務を覚えてこなすことに必死で、あっという間の3ヶ月でした。しかし、振り返ってみるとこの3ヶ月で課題がたくさん見つかりました。

まず、私は子どもたちに上手く注意ができません。研修で「嫌われたくないという思いがあっては良い関係性は築けない」ということを学びました。しかしまだ嫌われたくないという気持ちがあり、子ども同士のトラブルを

しっかりと注意できずに見逃してしまうようなこともありました。しかし、その都度注意して正していくことが、子どもたちの成長にもつながるため、自分本位にならず子どもたちのためにメリハリのある関わりをしていきたいと思っています。

また、私は人とお話しすることは大好きですが、自分から子どもに話しかけに行くことが苦手だということがわかりました。しかし良い関係を築く上で、コミュニケーションをとることは必要不可欠です。まだどのように関わったら良いかわからない子どももいますが、それでもこちらから明るく積極的に関わることを心掛けたいです。

また、子どもたちに何か頼まれたときに、自分で勝手に判断するのではなく、何事も先生方に相談してから行動することの大切さを学びました。先生方の何気ない行動の一つ一つにも意図があることを理解して、行動していきたいです。

他にも課題はたくさんありますが、何事も前向きに笑顔を絶やさず、且つ積極的に取り組み、子どもたちと一緒に成長していけたらと思います。

まごころホーム 有賀 真知



愛育園の職員になって

まごころホーム 井上はな

今年度から愛育園の職員になりました。井上はなです。よろしくお願い致します。

4 月から勤めさせて頂く中で、感じていることがあります。それは、「毎日が勉強」だということです。先輩職員が子ども達と接している姿、毎日のおまいり、子ども達との関わりから、沢山のことを学んでいます。まだまだ慣れないことばかりですが、学んだことを次の勤務で活かせるように、一生懸命取り組んでいきたいです。

5 月は善光寺ウォーキングや松本リレーマラソンがありました。行事を通して子ども達と沢山関わりたいと思います。

愛育園の職員になって

あおぞらホーム 宮原 徹

暖かい春の日差しあふれる 4 月より、愛育園の職員になりました宮原と申します。

愛育園での生活にも少しずつ慣れながら、子ども達との関わる時間を大切にして日々を送っています。約 3 ヶ月ですが愛育園の子ども達と触れ合い、子ども達一人一人が素晴らしい力を持っていること、そして時に助け合い、また時に学びあうなど愛育園としての子ども達同士の団結を非常に感じました。



今年度は、一人一人の子ども達の心に寄り添い少しずつ信頼関係を築いていき、それぞれの子ども達の持つ素晴らしい力を沢山見つけてさらに伸ばしたいと思っています。また愛育園の沢山の行事を通じ、子ども達と楽しさを共有し、一生懸命取り組む事の大切さを共に感じることも楽しみです。

子ども達の成長に関わるという強い責任感を持ち、自分自身も子ども達と一緒に成長していけるよう精一杯尽力したいです。よろしくお願い致します。

愛育園の職員になって

あおぞらホーム 石龍 成己

みなさん、こんにちは。今年度より愛育園の職員となりました、石龍成己と申します。実家はお

寺でして、昨年度まで大本山総持寺で修行をしておりました。修行している折、ご縁を頂き愛育園で勤める運びとなりました。

以前、学習塾で勤めていた経験もあり、元気一杯な子ども達に囲まれた職場で、非常に楽しく思っております。そして、愛育園の子ども達は、とても礼儀が正しいと思います。初めて愛育園に訪れた時、一人一人自分から挨拶に来てくれた事を今でも覚えています。毎日日課を通して、規則正しい生活を送っている賜物だと、一緒に生活していて思います。愛育園の職員になったからには、そんな子ども達に夢を持たせ、実現へ向け頑張らせ、そして自立させられるよう全力で関わっていかれたらと思います。

2 年間修行をさせて頂きましたが、生活する中でとても苦しい事も沢山ありました。猛暑の中行った、長廊下の雑巾がけは今でもよく思い出します。逃げ出したいと思うときもありましたが、同期と声を掛け合ったりし、何とか最後までやり通すことが出来ました。

修行生活で学んだこと、成長したことを子ども達に還元しつつ、深く関わりあっていきたいと思えます。まだまだ未熟ではあると思いますが、今後ともよろしくお願い致します。



愛育園の職員になって

あおぞらホーム 山田 忍

5 月より正規職員として、あおぞらホームを担当させて頂いておられます山田忍と申します。3 月末から研修も兼ねて子どもたちと一緒に過ごしておりますが、毎日わからないことばかりで子どもたちとの関わりも戸惑いの中、良き先輩方に助けられながらもあつという間に時間が過ぎ、早 3 ヶ月が経ちました。しかし、そんな中でも子どもたちは日々成長し、私自身も子どもたちに成長させてもらっているんだと感じています。

今年度は、愛育園 70 周年という節目であり、この年に入職できたこと、愛育園の職員であるということに誇りを持ち、何よりも子どもたちの目線に立てる職員になれるよう励んで参りますので今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

